



2022年11月29日

各 位

上場会社名 株式会社日本製鋼所
代 表 者 代表取締役社長 松尾敏夫
コード番号 5631 東証プライム
問合先責任者 総務部長 中西英雄
(TEL:03-5745-2011)

「Purpose (パーパス)」を起点とした企業グループ理念体系の制定に関するお知らせ

当社は、従来の「ビジョン、経営理念及びミッション」を見直し、新たに「Purpose (パーパス)」を起点とする企業グループ理念体系を制定しましたので、お知らせいたします。

当社グループは、将来予測が困難な現在の事業環境において、グループが一丸となって変化に対応し、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していくため、事業活動における判断と行動の軸となる「Purpose (パーパス)」を制定しました。

また、「Purpose (パーパス)」を起点として、当社グループが将来目指す姿である「Vision (ビジョン)」及び当社グループ独自の提供価値を生み出す「Value Creation Process (価値創造プロセス)」を再定義し、これら3つを合わせて企業グループ理念体系「Our Philosophy」として制定しました。

1. Purpose (パーパス)

Material Revolution

「Material Revolution」の力で世界を持続可能で豊かにする。

当社は、1907年に、当時の社会が求める素材であった優良な「鋼」を製造することから事業を開始しました。その後、「鋼」には、高い強度・耐熱性などの様々な特性が求められるようになり、当社は、絶え間ない技術開発によりそのニーズに応じて来ました。当社が製造する鍛鋼製品は、高い信頼性と優れた材料特性を具備した部材として発電所で使用されるなど、世界中の社会インフラを支える役割を果たしています。

また、当社は、第二次世界大戦後、いち早く軽量素材としての「プラスチック」に着目し、「プラスチック」加工機械の開発に着手しました。その後、「プラスチック」加工機械には、飛躍的に拡大する用途に応じた各種「プラスチック」を製造する技術や省エネルギー技術などが求められ、当社は、それらのニーズに応える技術開発・装置開発を進めて今日に至りま

す。

一例を挙げますと、カーボンニュートラル社会の実現に向け、自動車のEV化が進展していますが、当社製品であるセパレータフィルム製造装置は、リチウムイオン電池の中核部品を製造するうえで必要不可欠な装置となっています。

また、近年では、次世代半導体材料として本命視されている窒化ガリウム（GaN）結晶の量産技術や各種接合基板の素材を開発しており、これらの社会実装を支えることにより超スマート社会の実現に貢献して参ります。

このように、「素材を革新する」ことにより社会課題を解決し続け、世界を持続可能で豊かにすることが、当社グループの一貫した存在意義であると考え、上記をパーパスとして制定しました。

2. Vision（ビジョン）

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて全てのステークホルダーに貢献する。

現在、当社グループは、以下の社会課題の解決に向けて鋭意取り組んでおりますが、これらの実現に留まらず、様々な社会課題を解決する産業機械と新たな素材を開発し、世の中に提供することを通じて、将来にわたって全てのステークホルダーに貢献する存在であり続けることを目指し、上記の通りビジョンを再定義しました。

【産業機械の開発による社会課題の解決】

廃プラスチックによる海洋汚染は大きな社会問題となっています。当社は、これまで培ってきたプラスチックに関する独自の知見を活かし、廃プラスチックを原料にして新しい製品を造るリサイクル技術を確立したうえで、その製品の製造装置を提供し、プラスチック資源循環社会の実現に貢献します。

また、カーボンニュートラル社会の実現に向け、CO₂排出量削減などビジネスモデルの大きな転換を迎えているモビリティ分野で、燃費性能向上に繋がる軽量化素材の活用が求められています。当社は世界に先駆け、リサイクル性が高い軽量素材であるマグネシウムの射出成形機を実用化することに成功しており、その普及を積極的に進めていきます。

その他にも、セルロースナノファイバーや炭素繊維で強化されたプラスチックなど、環境負荷が小さい軽量素材の社会実装に向けた産業機械の開発・普及を実現します。

【新素材の開発による社会課題の解決】

身の回りのあらゆるものがネットワークにつながり、現実空間と仮想空間との融合が進む超スマート社会においては、高速・大容量通信、省エネを同時に満足する新たなパワー半導体材料が必要不可欠であり、その材料として次世代の結晶に大きな期待がかけられています。

当社は、既に量産を行っている水晶をはじめとした様々な結晶を製造する技術を活用し、

レーザダイオードや高周波デバイス、高耐圧パワー半導体向け材料として期待される窒化ガリウム (GaN) 結晶の量産技術やスマートフォンに搭載される表面弾性波 (SAW) デバイス用及び光通信・光変調器用の各種接合基板の素材を開発し、省エネ性に優れた各種素子の社会実装を支えることにより、超スマート社会の実現に貢献します。

3. Value Creation Process (価値創造プロセス)

当社グループがビジョンを実現するために、コア・コンピタンスを活かし、独自の提供価値を創造していくプロセスを「Value Creation Process (価値創造プロセス)」として再定義しました。

【Value Creation Process (価値創造プロセス)】

当社グループは、「プラスチック」加工機械の開発においては、装置内で素材を「溶かす」、均一に「混ぜる」、求められる形に「固める」技術をベースとし、これに「機械要素技術」・「精密制御技術」を加えて、広範な業種にわたる顧客の多種多様なニーズに応じて来ました。

結晶材料においても、容器内で原材料を「溶かす」、「固める」技術に「精密制御技術」を加えて、良質で用途が多岐にわたる結晶を製造して来ました。

当社グループは、これらの「溶かす」「混ぜる」「固める」技術と「機械要素技術」「精密制御技術」というコア・コンピタンスをより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装する「Value Creation Process (価値創造プロセス)」により、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます。

Value Creation Process (価値創造プロセス) の詳細については、添付資料「Our Philosophy」の P.8-9 をご参照ください。

以上



Our Philosophy

パーパスを起点とした日本製鋼所グループの企業理念

株式会社日本製鋼所

Purpose（パーパス）を起点とした企業グループ理念体系の制定にあたって

日本製鋼所は1907年、「鋼」作りからスタートしました。
当時の社会が求めていたもの、それは優良な「鋼」でした。
日本が産業技術の向上を図り欧米に追い付こうと国を挙げて
努力していた時代に求められていた普遍的な価値が「鋼」であったのです。
間もなく、創業から120年を迎えようとしています、
当時変わることのないと思われていた価値も、
明治、大正、昭和、平成、令和と移り、大きく変わってきています。

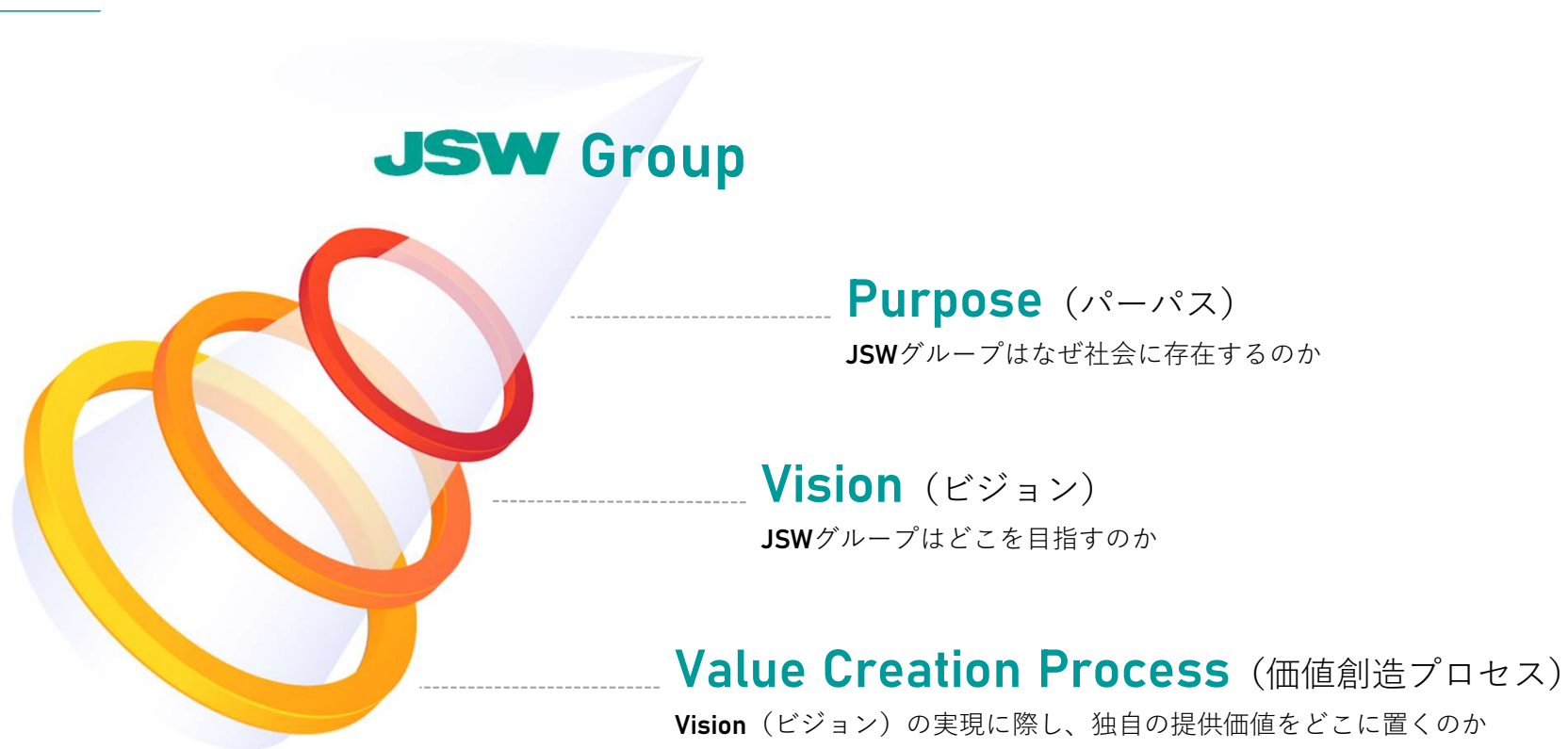
「自然資本」の価値が重視され、気候変動リスクを回避するために、
より軽量で環境負荷が低い素材が求められています。
当社は戦後いち早く軽量素材である「プラスチック」に着目し、
プラスチック用各種製造装置を世に出しました。
現在、廃プラスチックによる海洋汚染は大きな社会問題であり、
その解決に向け廃プラスチックを活用した資源循環社会の実現は、
世界共通の課題です。
さらに今、世界はカーボンニュートラルを目指し、
従来よりも軽量・高機能で省エネ性に優れた新たな素材を必要としています。

当社グループは、『**Material Revolution**（材料革命）』の力で
社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装することにより、
世界を持続可能で豊かにして参ります。



代表取締役社長 松尾 敏夫

Philosophy Structure



JSW Group Purpose

Material Revolution

「Material Revolution」の力で世界を持続可能で豊かにする。

JSW Group Purpose →

JSWの原点・歴史

▷鋼の革新

「鋼」に求められる様々なニーズに絶え間ない技術開発で応え、高い信頼性と優れた材料特性を具備した優良な鋼の部材が発電所で使用されるなど、世界中の社会インフラを支える役割を果たしています。

▷プラスチックの革新

戦後いち早く軽量素材であるプラスチックに着目し、飛躍的に拡大する用途に応じたプラスチック加工機械の開発・実装を進め、部材の軽量化や省エネルギーに貢献しています。

Material Revolution

「Material Revolution」の力で世界を持続可能で豊かにする。

当社グループはこれまで、素材を革新し続け、
社会課題を解決してきました。

これからも素材を革新する技術をより一層磨き、
社会課題を解決する存在であり続けます。

近年の取り組み

近年では、次世代半導体材料として本命視されている窒化ガリウム（GaN）結晶の量産技術や各種接合基板の素材を開発しています。これらの結晶材料・各種素子の社会実装を支えることにより、超スマート社会の実現に貢献して参ります。

JSWグループはどこを目指すのか

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて全てのステークホルダーに貢献する。

JSW Group Vision →

社会のニーズ

廃プラスチックによる海洋汚染は大きな社会問題であり、廃プラスチックを活用した資源循環社会の実現は世界共通の課題です。

カーボンニュートラル社会の実現に向け、CO₂排出量削減などビジネスモデルの大きな転換を迎えているモビリティ分野で、燃費性能向上に繋がる軽量化素材の活用が求められています。

身の回りのあらゆるものがネットワークにつながり、現実空間と仮想空間との融合が進む超スマート社会においては、高速・大容量通信、省エネを同時に満足する新たなパワー半導体材料が必要不可欠であり、その材料として次世代の結晶に大きな期待がかけられています。

JSW Group Vision

社会課題を解決する
産業機械と新素材の開発・実装を通じて
全てのステークホルダーに貢献する。

当社グループは、
「素材を革新する」技術の活用を通じて
社会ニーズを充たし続けます。

産業機械

従来培ってきたプラスチックの知見を活用し、リサイクル技術を確立した上で、廃プラスチックを原料にした製品を製造する装置を世界に供給します。

既に実用化に成功しているマグネシウム射出成形機その他、セルローズナノファイバーや炭素繊維で強化されたプラスチック等、環境負荷が小さい軽量化素材の社会実装に向けた産業機械を開発し、世界に供給します。

素材

水晶をはじめとした様々な結晶を製造する技術を活用し、レーザーダイオードや高周波デバイス、高耐圧パワー半導体向け材料として期待される窒化ガリウム結晶の量産技術や各種接合基板の素材を開発し、省エネ性に優れた各種素子の社会実装を支えます。

JSW Group Value Creation Process (価値創造プロセス)

JSWグループのコア・コンピタンス

「溶かす」「混ぜる」「固める」技術 + 「機械要素技術」「精密制御技術」

装置内で素材を「溶かす」
均一に「混ぜる」
求められる形に「固める」



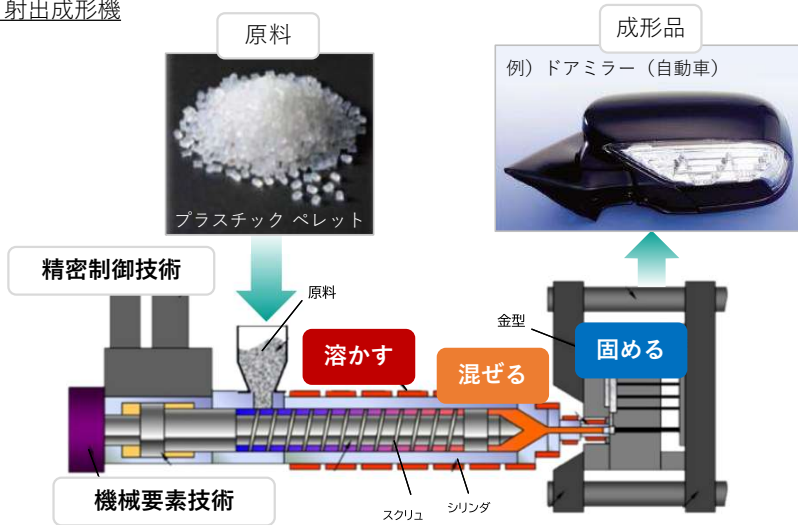
「機械要素技術」「精密制御技術」

容器内で原材料を「溶かす」
求められる品質の結晶に「固める」

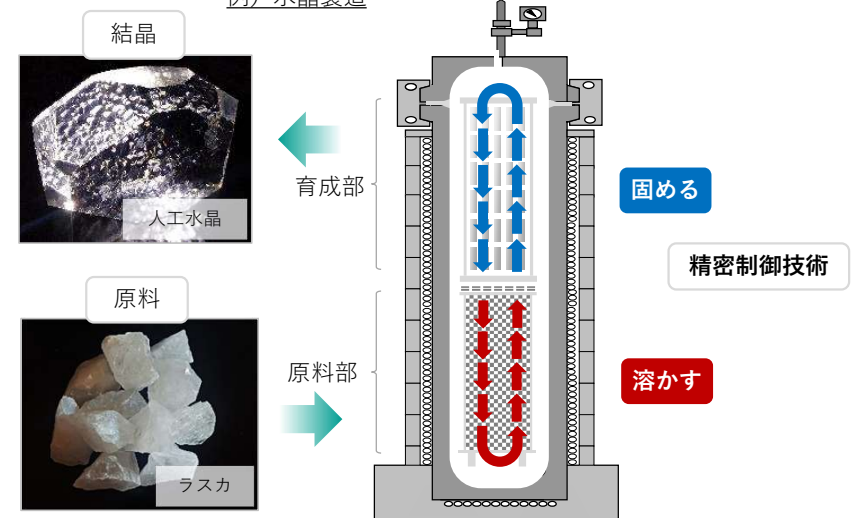


「精密制御技術」

例) 射出成形機



例) 水晶製造



当社グループは、**コア・コンピタンス**をより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発し、世界に供給することにより社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます。

JSW Group Value Creation Process (価値創造プロセス) →

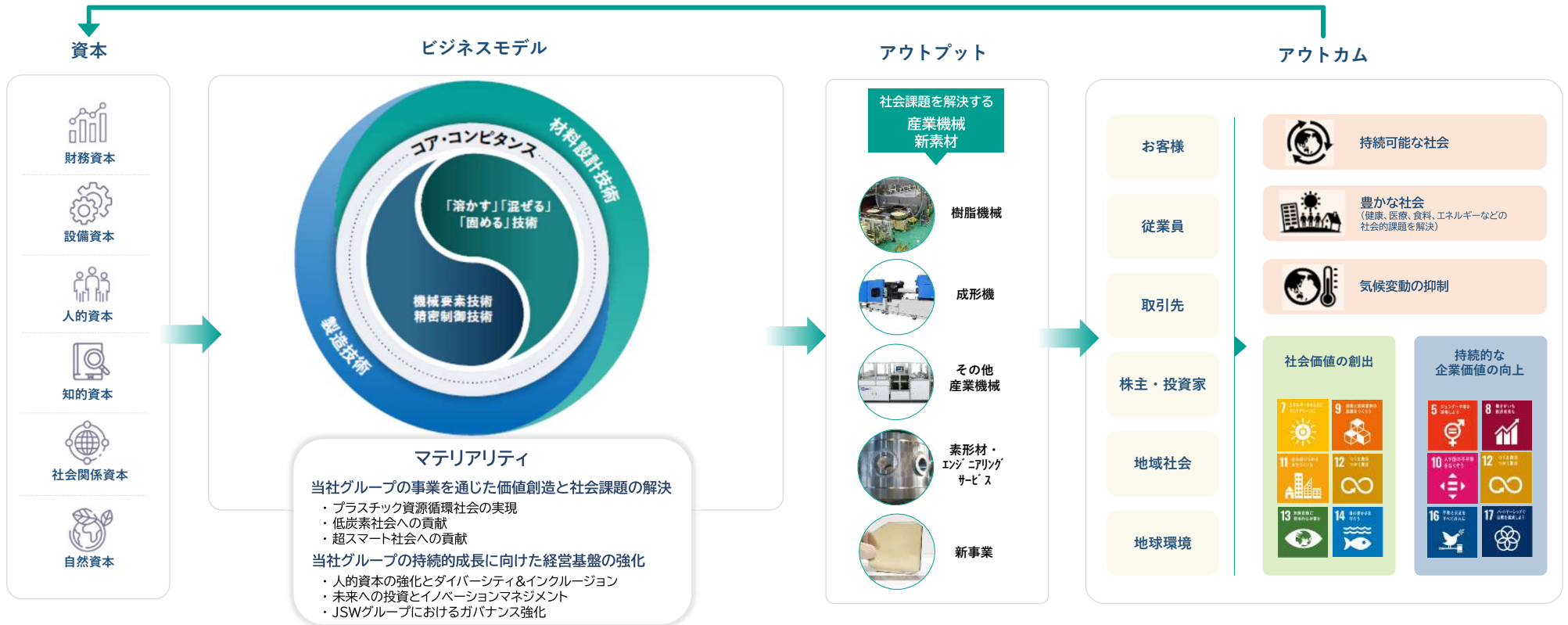
Purpose

Material Revolution

「Material Revolution」の力で世界を持続可能で豊かにする。

Vision

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて全てのステークホルダーに貢献する。



当社を取り巻く環境

廃プラスチック問題の解決
(サーキュラーエコノミーの形成)

2050年カーボンニュートラル

DX、AI、IoTの進展

先進国における少子高齢化

世界的な人口増加



JSW
THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.

JSW

© THE JAPAN STEEL WORKS, LTD. All Rights Reserved.